

令和3年度市政懇談会 会議録（要旨）

テーマ：地域が抱える問題について

【日 時】 令和3年4月18日（日） 10時00分 ～ 11時00分
【場 所】 藤山ふれあいセンター
【出席者】 ○篠崎市長 ○地区代表者（5名） 藤山地区自治会連合会会長 : 花田 和三 藤山地区社会福祉協議会会長 : 佐貫 和巳 宇部交通安全協会藤山分会分会長 : 山内 弓子 藤山地区コミュニティ運営協議会幹事 : 吉永 龍男 藤山地区コミュニティ運営協議会副会長 : 山本 美穂 ○政策広報室次長 ○総合戦略局 ○事務局（広報広聴課、政策調整課）
【概 要】 1 開会 2 市長あいさつ 3 参加者自己紹介 4 意見交換・懇談 5 閉会
【意見交換・懇談】 ○藤山地区自治会活動の現状について 【自治会連合会会長】 ・自治会役員を引き受ける人や自治会活動に参加する人が減っている。 ・藤山地区に転入される方に、地区のコミュニティ活動に参加してもらえるよう、市から働きかけてほしい。 【市長】 ・自治会の会員の減少は全ての地区での共通する課題である。自治会は暮らしに一番身近な組織である。 ・市全体で自治会等の地域活動に参加しやすい環境を整えていく必要があると思っている。全くの私案であるが、自治会等の地域活動へ参加する社員等を応援する「自治会等参加応援企業」のような制度を設けることができないかと考えている。毎月「自治会活動の日」を設け、市内の自治会、子ども会、PTAの活動などをその日に集中させるようにしたり、会社に申告すれば、自治会等の活動に参加しやすいような仕組みや環境づくりができればよいと思っている。

○地域の人材育成、子供会等の問題、役員選出の課題について

【コミュニティ運営協議会副会長】

- ・藤山地区にはコミュニティ団体が約 20 あるが、役員の引き受け手がいない。
- ・市の重点施策の中で「地域コミュニティの充実」が掲げられており、「人材育成を通じた地域コミュニティ活動の支援」とある。市として、人材をどう探すのか、どのように育て、サポートしていこうとしているのか伺いたい。
- ・コミュニティスクールの例では、警察 OB、学校関係 OB、市役所 OB が集まっているいろいろな知恵をいただければ、学校運営もスムーズに進むのではないかと思うが、探し方が難しい。

【コミュニティ運営協議会幹事】

- ・子ども会については、以前は加入率が 7 割程度だったが、現在は 3 分の 1 になった。現在、藤山小学校の児童数は 600 人弱だが、子ども会に参加しているのは 120 人程度である。かなり少なくなっている。
- ・藤山地区では、小・中学校とも PTA への全員加入をぎりぎりのところで保っていると思う。個人的な考えではあるが、今後、中学校をハブにして地域のまちづくりに参画するような、新たな取り組みができないだろうか。
- ・かつては、地域にまとめ役的な存在の人がいたが、現在はいなくなってきている。市の OB など、定年退職した人が登録された人材バンクのようなものを設けてほしい。

【地区社会福祉協議会会長】

- ・コミュニティや校区の役について、わずかでも有償であればお願いしやすいのではないかと。やりがいや生きがいでだけでは難しい。

【市長】

- ・人材の確保、探し方は大きな課題だと思っている。
- ・地域の皆さんが自治会活動、地域活動に入りやすい環境を整える必要がある。
- ・「自治会の役員になってみませんか」と募集をかけるような取り組みを始めていこうかと思っており、しっかりと検討する。
- ・役を依頼しやすくするための有償化については、各地区でも共有できるよう検討する。
- ・自治会組織の再編改定は、今後 10 年の計画を策定するにあたり、重要な一つの柱だと考えている。
- ・藤山地区は市内でも人口が多く、若い人も多い。このような地区で、自治会が体制を整えることができる状況を作らないといけない。しっかりと検討する。
- ・今後気を付けなければいけないのは、防災面。障害のある方や高齢者など、優先避難者を安全な状況までもっていける体制を整えなければいけない。その観点からも、再度しっかり見直しを行う。

○岩鼻公園の活用について

【自治会連合会会長】

- ・岩鼻公園は、東の「ときわ公園」、西の「岩鼻公園」と言われ、力を入れていただいて

いる。

- ・高齢者や子どもたちのからだづくりのための健康遊具や、見晴らし台、駐車場の整備を要望する。彫刻の設置についても要望する。
- ・子どもが動き回ることができるような施設を整備してほしい。

【市長】

- ・令和6年度に今の公園トイレを多目的トイレに建て替える予定である。
- ・多様な世代が公園で過ごせるよう、健康増進用の遊具の設置については、予算を確保する方向で努める。コロナ禍で、身近なところで健康づくりを取り組みたいというニーズが高まっている。しっかり把握し岩鼻公園の充実に取り組んでいきたい。駐車場の整備についても考えていきたい。
- ・今の親御さんは、大型遊具があり、駐車場もある公園に出かけることが多い。市内にはほとんどないため、再来年度の完成を目指して、山口宇部空港の芝生公園に大型遊具を設置したいと考えている。
- ・彫刻の設置については、市内各地区から多数の要望があり、順次、調整している。今後、地域の皆様と協議、調整をさせていただきたい。

○共助の心で支えあう地域のための解りやすい市のサポートについて

【地区社会福祉協議会長】

- ・地域住民で助け合う、支えあう「共助」の心が重要であると感じている。地域で困っている人のサインを見つけても、声を掛けるのはハードルが高い。ためらわずに声掛けができるよう、声掛けをしようとする、助けようとする人を市でサポートしてほしい。

【市長】

- ・困っている人に声掛けする人たちをサポートすることは非常に大事なことと思っている。
- ・他県では「プロボノ」という、社会課題の解決に、仕事で培った専門的なスキル・経験等をボランティアとして提供してもらい、プロの力を借りるというような取り組みが進んでいる。民間の専門家の力をお借りするのも1つのやり方かと思う。

○交通問題・ボランティアについて

【交通安全協会分会長】

- ・西宮から中山にかけてのグリーンベルトについて、昨年5月に会議が開催される予定だったが、コロナのため中止になった。本年はどうか。
- ・指導員については、予算の関係で削られたようだ。4人くらい少なくなった。

【市長】

- ・西宮から中山の件については、確認する。コロナの感染拡大が懸念されるので、感染拡大防止を徹底しながら開催するよう検討したい。
- ・予算のことは確認する。

○交通ボランティアについて

【市長】

- ・交通整理の方は、ボランティアでされているのか。

【交通安全協会分会長】

- ・皆ボランティアだが、自治会から手当てが支給される人もいる。

○防災情報の発信について

【自治会連合会会長】

- ・藤山小学校に設置された防災屋外スピーカーの試験放送があったが、音が小さかった。

【市長】

- ・試験放送だったため、弱い音で実施したが、放送の内容を聞こえづらかった。スピーカーは基本的には、外にいる人に知らせるためのものとして考えている。スピーカーはひとつのツールであり、防災ラジオなどと補完しながら、いざというときに避難できるようにしたい。
- ・今年度、市では防災ラジオを600台購入し、そのうち300台は、高齢者、障害者に優先的に無償貸与、残りの300台は1台2,000円で希望者に販売する予定である。携帯電話を持ち慣れていない世代の方もおられるので、そのような方に率先して防災ラジオが届くようにしたいと考えている。

○子どもへの教育等について（デジタル化・SNS）

○高齢者の SNS 等の活用

【コミュニティ運営協議会幹事】

- ・小中学校では、タブレットを一人一台配備する予定だと思うが、デジタルを活用した教育を行うための人材の確保が必要と考えるが、どのように考えておられるのか。
- ・宇部市でも人口が減少するなかで、都会の子どもたちと教育の格差が出ないように、デジタルをしっかりと活用してほしい。
- ・小学校ではSNSが問題になっている。子どもたちはSNSに慣れ親しんでいくのに、教師や親がついていけない。SNSについて親も含めた教育が必要になるのではないか。
- ・高齢者にとっても、LINEなどが命を守るツールにもなるので、検討をお願いしたい。

【市長】

- ・タブレット導入やプログラミング等の授業で、教師が対応しきれない部分は、学校にデジタルの専門家、アドバイザーを配置したり、ヘルプデスクを設置するなど体制を整えたいと考えている。
- ・デジタル化により、例えば、東京でしか受けることのできなかつた授業が宇部市でも受けることができる。都会との教育の差は少ないと考える。これから、教育環境、授業の形態は大きく変化していくと思う。

- ・スマホが一気に浸透し、SNSの利用の使い方、ルールの徹底、新しいルールの確立が必要である。対応を強化していかなければならない。
- ・制限しすぎるのも良くないと思っているが、子どもたちが犯罪に巻き込まれる可能性がある。警察でもノウハウも蓄積されてきていると思うので、見極めながら考えたい。
- ・高齢者対象のスマホ講座は人気のようなのである。携帯販売会社の方に講座を地区で開催してもらうのも1つの手段になるのかもしれないと思っている。
- ・今後、地域のコミュニケーションのあり方も変わっていくと考えている。将来的には、回覧板もスマホだけになる可能性も考えられる。

○地域支援員について

【自治会連合会会長】

- ・地域支援員制度は大変助かっている。今後もぜひ続けていただきたい。

【市長】

- ・皆さんの暮らしに寄り添うことが市の大きな使命と考えているので、引き続き取り組んでいきたい。

○マイナンバーカードについて

【地区社会福祉協議会長】

- ・先日、スマホでマイナンバーカードの申請を行ったが、思ったより簡単にできた。市では、市役所に行かなければ取れなかった書類が、今はスマホで取得できるのか。

【交通安全協会分会長】

- ・個人情報が出てしまうという話もあるが、大丈夫なのか。

【市長】

- ・全てではないが、コンビニエンスストアで取得できる証明書がある。
- ・昨年、「ご遺族サポート」という予約制の窓口を設置し、死亡に伴う手続きをできる限り一か所でできるようにしている。子どもが生まれたときも、できる限り一か所で手続きができるよう進めている。
- ・新庁舎には総合窓口を設置し、基本的にはワンストップで対応できるようにしたい。そのために、デジタル化を進め、マイナンバーカードの普及も必要だと考えている。
- ・情報漏えいが行らないよう、国では制度設計をしているが、不安を取り除くことができるよう、国には努力してもらいたいし、セキュリティは強化してもらいたいと思っている。

○市政についての期待、情報の発信について

【自治会連合会会長】

- ・学校を取り巻く環境の改善、地域の課題を速やかに取り上げ、皆さんが宇部に住んでみたくなるような環境を整えていただきたい。
- ・今、市ではどのようなことに取り組んでいるのか、市政情報の発信について、もっと

市民に伝わるよう検討してほしい。

【市長】

- ・市政懇談会は藤山地区が7か所目だが、制度をご案内しても、知らなかったというお声が多々あった。市の情報発信不足と考えている。情報発信のあり方をしっかり検討していきたい。
- ・市では、マチマチというSNSの運用を開始した。現在、試用期間ではあるが、若い世代はSNSの方が、コミュニケーションを取りやすかったり、情報を得やすいと思うので、うまく活用していきたい。
- ・最近、都会から離れたたいという人が増えており、空港がある宇部市は注目されている。これから、東京での仕事も宇部でテレワークが可能になり、子育ても宇部でできる時代になる。この機会を逃さず、宇部が暮らしやすいまちであることをしっかりと情報発信していく。
- ・なにより、今、宇部市に暮らす市民の皆さんにとって、暮らし満足度No.1であるような宇部市にしていきたい。

【市長】

- ・自治会の人材確保をどうしていくか、この課題を持ち帰り、今後の市の計画に反映し、より暮らしやすい宇部市となるよう努めていきたい。
- ・新しい課題は次々と出てくると思うが、より発展していくためのステップと考えているので、引き続きご提言をいただき、暮らしやすい地域をつくっていきたい。